

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 5 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008 ~2011

課題番号：20330180

研究課題名 (和文) 明治期初等国語読本とリテラシー形成メディアとしての子どもの読み物に関する研究

研究課題名 (英文) Research on child's reading as national language reader and literacy formation media such as beginning of the periods of the Meiji era

研究代表者

府川 源一郎 (FUKAWA GENICHIRO)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：00199176

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：国語教育史、教科書、日本近代文学

1. 研究計画の概要

(1)目的

本研究は、教科書や児童読み物についてのさまざまな試みが模索され、また大きな転換点でもあった明治期の文化状況に光を当て、そこでの小学校教科書と児童読み物との相互交渉と断絶の様相を明らかにすることを目的としている。それは、教科書や児童読み物を通して作り上げられた、近代文化の展開の様相を視野に入れつつ、日本近代児童文学史や教科書史を書き換えることでもある。

(2)方法

文献資料の収集とその分析が中心となる。明治期の国語教科書類に大きな影響を与えたアメリカのリーダー類との比較分析、明治期の国語教科書(読本)の系統的な調査とその位置付け、さらには周辺の子どもの文化との比較検討を通して、明治期の子どものどのような知識獲得メディアを通してリテラシーを身につけ自己形成していったのかを、歴史的に探求する。

2. 研究の進捗状況

(1)2008年度は、明治期初等国語読本と子ども読み物の状況を調査しその特徴を整理した。まず、明治初期の「子ども向け翻訳啓蒙書」として、従来は取り上げられてこなかった25冊を博捜し、それらを一覧表にした。総数では、33冊をランクアップすることができた。これら「子ども向け翻訳啓蒙書」が果たした役割を、もともとなったアメリカの読本や修身書などと比較して、その内容、文章・文体などの観点から検討した結果、これらの本が明治期の子どもの読み物に占める位置は、これまで考えられてきた以上に大きいとい

う結論を得た。

(2)2009年度は、明治初期初等国語読本と子どもの読み物の状況を、国語教科書を中心として探っていった。中心になったのは、『小学読本』などの国語教科書をめぐる状況の調査と考察である。出典不明だった『小学読本』の冒頭教材の典拠がアメリカの地理教科書であったことを特定し、そこから明治初年には、欧化主義的な方向と国粹主義的な方向とが、互いにぶつかり合いながら展開していった様相が、教科書の教材編成や構成に表れていることを実証することができた。

(3)2010年度は、明治中期初等国語読本と子どもの読み物の状況を、国語教科書を中心として探った。中心になったのは、明治期の教科書書肆の雄とも言うべき金港堂の国語教科書と、明治20年前後の文部省の国語教科書をめぐる状況の調査と考察である。さらに、明治検定期の代表的な国語教科書について資料を収集し、またそれが子ども読み物である「少年書類」とどのように関係するのかについて考察する準備が整った。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進行している

しかし、子ども文化との関係はまだ資料収集・分析にまでいたっておらず、最終的なまとめに繰り込めない可能性が出てきた。国語教科書を中心にして、それと子ども文化との関係を示唆する方向でまとめを行いたい。

4. 今後の研究の推進方策

四年間の研究全体を見渡すと、国語教科書については、所期の成果がほぼ見通せるようになった。しかし、周辺の子どもの読み物やおもちゃ絵、幻燈、修身画などについての資料

は揃いつつあるが、それらを個別に論じるには、この一年間では難しいと思われる。そこで、国語教科書の研究の中に、それらに関する言及を挟み込む形で、最後のまとめを行うつもりである。本研究については、それぞれ毎年の研究成果を関連学会で発表し、また学会誌に論文として掲載してきた。それらを、統合して、まとめをおこなう予定である。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計7件)

①府川源一郎『修身読み物』と読書教育』『横浜国大言語教育研究』査読無、第33号、2010年、pp1-12

②府川源一郎『西洋夜話』に影響を受けた『大日本夜話』—明治初期の子ども読み物の一断面—『ル・ファール』査読無、5号、2010年、pp67-74

③府川源一郎「田中義廉編『小学読本』冒頭教材の出典について—『五人種』の図像とその意味—」『国語科教育』査読有、第68集、2010年、pp59-66

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007811942>

④府川源一郎『滋賀県管内小学読本』の検討』『横浜国大言語教育研究』査読無、第31号、2009年、pp14-25

⑤府川源一郎『西洋勸善夜話』における翻案—The National Readers を中心に—』『児童文学研究』査読有、第42号、2009年、pp41-53

〔学会発表〕(計3件)

①府川源一郎『修身読み物』と読書教育』日本読書学会、2010年8月7日、全林野会館

②府川源一郎「明治初期国語教科書の検討—福沢諭吉・古川正雄・松川半山の仕事—」全国大学国語教育学会、2009年5月31日、秋田大学

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007386370>

③府川源一郎「近代日本児童文学の起点をめぐって」日本児童文学学会、2008年10月11日、愛知淑徳大学

〔図書〕(計1件)

府川源一郎「明治初期翻訳啓蒙書と子ども読み物」『図説翻訳文学総合事典 第5巻・日本における翻訳文学(研究編)』大空社・ナダ出版センター、2009年 pp411-429